

清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第4回会議 議事録

日時	平成28年3月28日(月) 午後1時30分～2時45分		場所	本庁舎3階 大会議室
出席者	推進会議 委員	内田 俊宏 委員 (中京大学経済学部客員教授) 【座長】 山本 武司 委員 (清須企業懇話会幹事) 北山 ゆり 委員 (愛知県立新川高等学校校長) 舟橋 啓臣 委員 (愛知医療学院短期大学学長) 山田 功 委員 (中日信用金庫理事長) 平野 邦弘 委員 (日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表)		
	清須市	市長、企画部長、事務局 (企画部企画政策課)		

1 開会

事務局

それでは、定刻となりましたので、ただいまより「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の第4回会議を開催いたします。

本日の会議のスケジュールにつきましては、お手元の「次第」のとおりです。それでは、次第の「1 開会」に移らせていただきます。

開会に当たりまして、加藤市長よりごあいさつを申し上げます。

○あいさつ

加藤市長

改めまして皆さんこんにちは。

清須市の花はサクラとチューリップですが、いよいよ開花が始まっておりますけれど、この4月2日、「春日五条川さくらまつり」と、それからもうひとつ合わせて「2016清須ウォーク」ということで、多くの人に市内外から来ていただきたい、そして、まちの魅力とチューリップやサクラの花を楽しんでいただきたいと思っていますところでございます。

そのような中、本日は皆様方には大変お忙しい中でございますが、「まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の第4回会議にお集まりいただきました。誠にありがとうございます。

また、委員の皆様方におかれましては、この推進会議、あるいはまた重点検討分野ごとの戦略提言会議を通じまして、本市の総合戦略の策定に、貴重なご意見やご提案をいただいております。おかげをもちまして、2月23日でございますが、清須市人口ビジョン及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定することができました。改めてこの場を借りましてお礼を申し上げます。

さて、3月議会も終わったわけでございますけれども、総合戦略に関する施策や予算案につきましては、議員各位から多くのご質問を頂戴いたしました。市議会の方も総合戦略について、非常に関心が高いということも、改めて実感した次第でございます。

本市の地方創生、とりわけ総合戦略の実現に向けて、より効果的に事業を展開していくため

に、皆様方には本日、幅広いご意見をいただきたいと考えております。どうぞひとつよろしくお願いを申し上げまして、ごあいさつとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 議題 清須市人口ビジョン（案）及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

事務局

それでは、議題の方に入らせていただきます。

こちらからは座長の内田先生に進行の方をお願いしたいと思いますので、内田先生よろしくお祈いします。

座長

内田でございます。ここからは私の方で議事を進行させていただきたいと思ひます。よろしくお祈いします。

それでは、早速ですけれど、次第の「2 議題 今後の清須市のまち・ひと・しごと創生に向けた取り組みについて」に入つてまいりたいと思ひます。

まず最初に、お手元の資料に基づきまして事務局からまとめてご説明をいただいた後で、各委員の先生方から順次、ご意見等をいただきたいと思ひますので、よろしくお祈いします。

それでは、事務局からの説明をお祈いします。

○資料説明 （事務局）

○意見交換

1) 総合戦略に基づく平成28年度の主な取組内容について

座長

ありがとうございました。

前回、第3回会議の各委員の先生方からの提言、それからパブリックコメント等を前提にしまして、加筆修正していただいた資料についてご説明いただきました。

それでは、まず1巡目といたしまして、今事務局からご説明がありました総合戦略に基づく平成28年度の主な取組内容について、すべての項目に関して、方向性、それから具体的な内容などについて、ご意見、提案などを頂戴したいと思いますけれども、資料7、個別具体的には資料4とか、この辺りが提案をいただく資料になるかと思ひます。

また今回も名簿順で恐縮ですけれども、山本委員の方から、3分程度を目安にご意見を頂戴したいと思います。

山本委員

山本でございます。よろしくお願いいたします。

まず、このたびは膨大な資料をまとめたことを、すごく時間がかかったと思ひます。しかも、

我々の意見についても、きちんと反映した形になっておりますので、素晴らしい計画になっていると思います。

その中で、どう進めていくかということで単年度で書いていただいておりますが、前回申し上げましたように基本目標1はどちらかという攻め、2以降、2、3、4はどちらかという守りというか、基盤的な内容になっていると思います。そういう意味で、あえて、語弊があるかもしれませんが、攻守のバランスが取れたいい計画になっていると思います。

個人的には企業市民として基本目標1については、例えば清須学の歴史マイスターとか、そういうところも、積極的に従業員に参加を呼びかけるですとか、そういったことを通じて、提言だけではなくて、実行に関してはぜひ一緒に取り組む、そういう形で進めていければと思っています。

内容については、申し上げたことを反映していただいているので、何ら異論はございません。以上でございます。

座長

ありがとうございました。清須学講座についてはキリンさんを含めて企業が応援していただけるということですので、実効性は高いものになるのかなと思います。

それから、ちょっと感じたので言うと、清須学講座と清須学歴史マイスターに関しては、対象者は市民だけですか。

事務局

現在のところ、総合戦略の文脈では主に市民が対象ということ想定しておりますが、検討の中で、市外の方でも元市民の方とかそういった方もおられるということ想定して、拡充すべきではということも含めて検討させていただきたいと考えております。

座長

シビックプライドの醸成ということなら当然、市民が中心になろうかと思いますが、最近ではブロガーとか、例えば城ガールとか歴女とか、どういう地域であっても興味がある、特に若い人だと非常にありがたいのですけれども、そういう意味では清須をPRしていただくためには必ずしも市民に限定しなくてもいいのかなという印象も持っております。

例えばトリップアドバイザーで犬山城が行ってよかったお城のランキングで1位か2位に何年前になったことがあるのですが、清須の地域資源に関して興味を持つ人というのは必ずしも市民ではなくて、域外の方がPRしていただいて、そこから逆に市内からも注目される、そういう資源があるのだという、逆輸入のような形でシビックプライドが醸成されるようなケースも多いかと思います。

特に名古屋でも、名古屋めしにこれだけ自信を持っているのは、万博のときに首都圏とか海外で紹介されて、それだけ名古屋めしというのは特徴的なものなのかと、そういう自信を持ったというところで、さらに地域内でもかなりメジャーになっているということもあろうかと思

います。

ぜひその辺は、コストの問題もあろうかと思imasので、シビックプライドの市民への醸成、プラス域外での観光面でのPRなどの効果等も考慮した形での市民以外の方への公開というか、そういったところも検討していただければと思います。

それでは続きまして、北山委員お願いします。

北山委員

北山です。よろしくお願いします。

まず、清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方ですけれども、最初に6点修正されたというところもご説明をいただいたのですが、本当に私たちの、特に私は思いつきのようなどころがあるのですけれども、そういう意見をきちんと受け止めて反映していただけたなど、本当にありがとうございました。

今日は、資料7の方の具体的な平成28年度の取り組み予定ということなのですが、山本委員の方も施策1のことを今おっしゃられたのですが、私も教育の立場なものですから、やはり人を育てるというところで、いつもこの会議には参加しておりまして、よくここでお話ししていた、清須市さん、それから貝殻山貝塚資料館と連携した1年生の総合学習の「地域探求」なのですけれども、年度末の学校も学校評議員さんや学校関係者評価委員会で、学校の自己評価の評価をしていただくという会議を行います。そこで「地域探求」については非常に高い評価をいただきました。

ただ、その中で、特に地元の方、名古屋市など市外の保護者の方はすごく良いという評価が高かったのですが、清須市から来ていただいている委員さんは逆に、素晴らしいけれどもまだこの取り組みが、調べ学習として清洲城付近ですね、そして貝殻山貝塚資料館を実際に訪れるという現地踏査、そして、その後、戻ってきて自分たちのテーマごとに発表、プレゼンをするという、それで終わってはいけないだろうという、なかなか鋭いといえますか、レベルの高い指摘を受けまして、生徒がそこからディスカッションをして、もっと深めていけるようにしていかなくてはいけないのではないかと。例えば信長について調べるなら、どうしてそういう決断や判断をしたのかとか、それは正しかったかどうかという、そういうようなディスカッションまでできて、この取り組みはいいのではないかとと言われて、ごもっともだと思っていたのですが、そういう意味で、やはり教員がやりますとどうしても授業になってしまうものですから、こういうマイスターやサポーターの方と連携しながら、深めていけるという、そういうことができていくのではないかと、すごく期待をしています。

特に、高校は県立なものですから、市と協力するときには本当に様々な関係部署に単独で行かなければいけないというところに、いつももどかしさを持っていたのですが、9ページで学校支援地域本部というのを追記していただいたのは本当にありがたくて、これまでの市内の市立の小中学校だけではなく、市内にある県立にも利用させていただけたらと思います。

それから、シビックプライドの方ですけれども、この言葉、言葉の意味を入れていただいたのですけれども、学校にも通じることで、清須市内にある唯一の高校なのですけれども、地元

から入ってくる生徒は非常に少ないです。どんどん他地区へ、今の高校入試の制度も影響しているとは思いますが、中学生は出ていきます。でも、やはりその中から、いずれ戻ってきて、地域の中心となる人材が出てくるように、私たち教育に関わる人間は考えていかななくてはいけないのではないかと思います。以上です。

座長

ありがとうございました。今ご指摘のように、義務教育期間でのシビックプライド醸成は非常に効果的だと思います。重要だと思うのですが、ひとつやはり注意しなければいけないと思ったのは、歴史・文化を深掘りしていく段階で、清須のいい面を特に強調していく必要がある。清洲城、清洲越しで名古屋城に移ったその背景は当然、水害に弱いとかそういうマイナスの面もあって、その辺は現在のインフラ整備など、ハード面、ソフト面等で改善されているという、併せてその辺の情報も提供していかないと、ミスリードする部分も出てきてしまいますので、その辺、より深く掘り下げて、最終的にはそれがいい方向に向かう、シビックプライドがプラスの面で作用するということが重要なのかなと思います。

それでは続きまして、舟橋委員お願いいたします。

舟橋委員

舟橋です。よろしくお願いします。

膨大な意見をこういう形でまとめられたということに敬意を表したいと思います。

私が感じたのは、基本目標を4つに分けているのですが、細項目について、これが市民に見える形でちゃんと進めることができるかどうかということだと思うのです。パブリック・コメントのところを読んで幾つか感じたのは、やはり市がいろいろなことに取り組んでいるのに、やっていないと判断をしている意見が幾つかあったように思います。それだけ周知がされてないということになるのかもしれない。

たとえば、1番の歴史・自然のところですけども、「ボランティア武将隊の活動を支援し」というような形になると、ボランティアがいて、それを支援して、それで武将隊をつくるのだという、ある意味柔らかい、ソフトタッチの支援ということになるわけで、これがもし市民が進んでやる人がなかったら全くストップしてしまうというような気がするものですから、これをいかに見える化して計画を実行していくかということが大事ではないか。そうすることによって住民も、やっているのだなということを感じて、まちが生き生きしてくるというような気がします。

「あしがるバス」、観光バスが走ることによって、それも走りまわればPRになりますし、やっているんだなということを感じてくれると思います。

ただ、なかなか一つひとつのことについては理解しにくい、目に見える姿として現われるのは難しいところもあるのでご苦労されると思いますが、やはりそういうことを感じているかどうかということを検証しながら、やり方の場合によっては変更したりする必要が出てくるであろうというふうに感じております。以上です。

座長

ありがとうございました。今ご指摘のボランティアの武将隊等について、清須学講座、清須学歴史マイスター等の実施によって、この中からの修了者を中心にそういった人が出てくるということは期待できると思いますけれども、今のご指摘の中で感じたこととして、市民に見える形で情報発信をしていかないといけないというのは、ごもっともなのかなと思います。

あと、メディアの活用等で、メディアで取り上げられることによって市民がそういった認識を持つということもかなり多いかと思います。そのためには、やはり何か新しい仕掛けを、他のまちにない、そもそも清洲城という観光資源があるというのは、かなりの売りなのですけれども、そこで例えばコスプレ、甲冑の試着体験等とも絡んできますが、明治村などでも、スタッフはほとんど明治時代の着物を着て歩いているとか、あそこは民間でテーマパークなのでそのようなのですけれども、そういうテーマパークのようなまちづくりというものがあるのもいいのかな。清洲城というところを舞台にしたイベントを定期的に行って、例えば産直市場、マルシェなどとセットでやりながら、その中でコスプレ的な要素も取り込んでいけば、メディアなんかも取材に来ると思いますし、そういうまちづくりと無料のPRというか、効果を二重にできるような、そういう取り組みというのでも検討されてはどうかと思いました。

それでは続きまして、山田委員をお願いします。

山田委員

山田でございます。よろしくお願ひいたします。

委員の方々が再三おっしゃってみえるように、非常にすばらしくまとめていただいているので、我々が言ったことが非常にポイントポイントで表現をしていただいております。

ですから、基本的にこの件について、私の方から申し上げることはありませんが、一番私が思っているのは、シビックプライドというところですね。「学」という言葉が入っているので非常に硬いイメージがあるかも分かりませんが、基本的に歴史が現代に通じるものというのは随所にあります。現代人についても、今あるものは、もともと出発点になっていると、ああいったことも結び付けて認識をしていく必要も、非常に十分あるのではないかと思いますので、こういったことを私も勉強させていただきたいなと思っております。

実は、私どもの若い職員と話をする機会があつていろいろ感じるどころがあり、感覚的な理解が非常に強いです。どうしても、スマホとかそういったもので理解をしていくということが多用されていますので、骨格の部分まで自分で追究しましょうというところが、あまり感じられないところがあるのです。これはちょっと、若い世代の残念なところかなと、私は個人的に思っているのですけれど。

何故かといいますと、やはり実体験が非常に少ない。丸ごと自分で感じる、心を震わせるような体験がどうしても少なくなっているのではないかと思いますので、やっぱり知る喜びを知るとか、「こんなことがあったのか」とかそういった体験、発見、そういったものを実の世界で認識するというのが非常に重要だと感じておりますので、こういった機会を使って、皆さん

方の表現の中で、実際に「ああそうか」と思わせるような取り組みができれば、清須の皆さんについて新しい情報を蓄積してお伝えすることができるのではないかなと思います。

あと、これから取り組んでいくときについては、答えがない世界に向かっていきますので、やはり思惑どおりとかイメージどおりいかないことが多々あると思いますので、その辺りは柔軟性を持って対応していくということも、極めて大事なことかなと思いますので、これも新しい取り組みをする場合については十分頭の隅に置く必要があるかなと思います。

あと、若い世代の子育てしやすいまちをつくるとか、多岐にわたる施策をこの中に盛り込んでいただいておりますので、これも先ほど若い世代と申しましたけれども、やっぱり自分のまちで生活をしていくということについて、夢が持てるというか、これでいいんだと、やっぱりこのまちが好きなんだというようなことが実感できるような、若い世代にメッセージを届けるようなことにこれを実行していただければつながる部分は十分あるのではないかなと思っています。

全般的にはそんな印象を持って見させていただきました。どうもありがとうございました。

座長

ありがとうございました。今ご指摘があった清須学講座、清須学歴史マイスターに関しては、確かに「学」という、これは格式高いイメージにもなりますけれども、やはり実効性を高めるためにイベントなどで周知するとか、紹介するとか、例えばクイズ大会等でそういった講座とかマイスターから問題を出すとか、そういった、現状行っているイベントなどでの紹介も必要なのかなと感じました。

それから、そういった清須について学ぶという、シビックプライドの醸成について、先ほど山本委員の方からキリンビールさんなども協力できるのではないかというお話をいただきましたけれども、当地区、市内に立地している大企業の工場だとか、あと、山田委員のところの地域金融機関とか、そういう地域に根ざした企業についても、そういった情報提供をしていくとかそういった試みも、逆に民間企業の営業などにも利活用できるのかなと思いますので、その辺も協力できるのところとは、行っていくことが必要だと思います。

それでは最後に、平野委員お願いいたします。

平野委員

平野でございます。

計画といいますか、総合戦略、提言が出来上がっておりまして、敬意を表したいと思います。

私の方からは、特に工場を使用している立場からすると、基本目標4で安全・安心で快適に暮らせるまちをつくるということで、これも計画を出していただいておりますので、こちらの方を着実に進めていっていただきたいということが、まず第一でございます。

それから、いろいろな施策が書かれておりますので、具体的に進められるときには、一例を挙げると、基本目標3の「シニア世代が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる」というところで1つ目に清須学講座、清須学歴史マイスターということで、シニア世代の方々の社会参

加の促進や活動意欲の醸成の契機となるようにということで、その制度設計を行うということで書かれていますので、制度によっては、参加していただける方が多くなるでしょうし、そうでない場合もあるというふうに思いますので、具体的に検討される際には、幅広い見識を集められて、いろいろな角度から検討していただければと思います。そういう面では、他の面でも具体的に進まれる場合に検討をしていただければと思います。

それから、今の社会情勢としては高齢者が多いのは事実でございますので、基本目標3の施策3、地域包括ケアシステムの構築というところで、認知症の疑われる方について家庭訪問だとか書かれておりますので、こちらの方は書かれている以上は確実に進めていかれば、清須というまちは非常に住みやすいまちだということで広がっていくのではないかなと思います。こちらの方の取り組みについても、確実に進めていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

すみません。以上であります。

座長

ありがとうございました。やはりシニア層にやさしいまちという意味でも、清須学、清須学歴史マイスターというのは非常に効果的だと思いますし、あと、若者、女性についても、まちづくりの方向性としてそういう清須の方向性というのを内外に示していくことが非常に重要だと思います。

2) 4つの基本目標の実現のため、今後さらに力を入れるべき施策について

座長

それでは、1巡目を終わりました、これから2巡目に入ってまいりたいと思いますけれども、2巡目に関しましては総合戦略への位置づけにかかわらずに、4つの基本目標の実現、基本目標4つありますけれども、その実現に向けて今後さらに力を入れるべき施策について、どういった分野でもかまいませんけれども、自由にご発言いただきたいと思います。時間の都合もありますけれど、2～3分をめぐりをお願いしたいと思います。

それではまた、山本委員からお願いします。

山本委員

再び山本でございます。よろしくお願いいたします。

繰り返しになりますが、私はやはり、基本目標1が重要かなと思っております。いろいろな施策はあるのですが、全体的に見ますとやはりシビックプライドの醸成。これに尽きるのかなと、私は考えております。

ややもすると、こういったものはすばらしい計画をつくって完成、終わりみたいになるかもしれませんが、やはり適度にPDCAを回して、きちんと追いかけていく。もしKPIが達成できなさそうなのであれば、その理由とともに下方修正をしたり、圧倒的に余裕で達成できそうなのであれば理由とともに上方修正するということが大事なのかなと思っています。

そういう意味で、その他の取り組みということで、今年も8月、12月に進捗状況について確認する機会があるということは本当に素晴らしいことだと思っております。

決して計画を立てて終わりではなくて、計画をきちんと実行して、それが最終的な目標だと思っておりますので、KPIを追いかけるところも重要ですし、あと、もちろん計画はできるだけ達成するのが本来の姿なのですが、理由があれば上方修正はもちろんですし、下方修正もあると思いますので、その辺はきちんと理由とともに、なぜ下方になったのか、上方になったのかということを含めて、ここを追いかけていければ、よりよい清須市、そして清須を愛する人が増えてくるのではないかなと思っております。以上でございます。

ありがとうございました。

座長

ありがとうございました。確かに今ご指摘のKPIの数値目標に関して、柔軟に対応していただくということで、より目標達成ができそうな部分については上方修正を。下方修正は、なるべくしない方がいいとは思いますが、やはりそういった柔軟に対応することによって、さらに成果が大きくなる可能性は高くなるのかなというふうに思います。

それから、それに関連しまして、訪日外国人の観光誘客、これは基本目標1の施策4になりますけれども、これも、為替相場の変動などによってもだいぶ変わってくるかと思いますが、資料7では中部国際空港の外国人向けの案内カウンターでのリーフレット配布とありますけれども、その下に愛知県の観光協会とか市の観光協会、これは、名駅のところですかね。ゴールデンルート上の個人のリピーターが今後かなり増えると思いますので、中部国際空港から入ってくるインバウンドについてももちろんなのですが、名古屋駅での観光案内での情報発信、県の観光協会は少し離れていますけれど、駅の中とか、オアシス21とか、大須とか外国人の集まるようなところでも、積極的に行っていく必要があるのかなと思います。

それでは続きまして、北山委員をお願いします。

北山委員

北山です。今、計画については山本委員の方から的確におっしゃられたので、私は、今回こちらに参加させていただいた感想みたいになってしまうのですが、ワーキンググループにも参加して、本当に若い人たちと実際にいろいろ話すことができ、とても勉強になったのですが、先ほど山田委員の方も若い世代のことをおっしゃられたのですが、一番ショックだったのは、アンケート結果で異性とつき合うことが得意ではないといいますか、異性とうまくつき合えないという方が29%もいるということが本当にショックで、実際高校生を見ていたり若い教員を見ていても、本当にいるのですね。その辺りのことを、私たちは、人を育てていく仕事なものですから、そこからきちんと考えていかないと、子育てのしやすいまちをつくることも大切だけれども、根本はそこにあるのかなと感じました。

それで、今、18歳の選挙権ということで、本当に一市民、一公民としてやっていける制度をつくっていかなくてはいけない。そのために何をしていかななくてはいけないかなということ

を考える上で、とても今回のこの会議は、私にも勉強になりました。

実際、計画を実施していくというところが大切だということなのですが、私の方でも、特に学校と清須市と連携してやっていくものについて、活用していく面では、いろいろ頑張っていきたいと思っております。以上です。

座長

ありがとうございました。若い世代の出会いの場が少ないというご指摘で、これは本当に、そもそも若い人たちは名古屋とか東京に行ってしまうて減っているということがありますけれども、やはり定住人口を増やしつつ、出会いの場を増やしていくような形に、集客の核になるようなというか、平日も土日もそうですけれども、市民がそこに行けば、ワイワイと何かあるというような、そういう賑わいの場を創出するというのは非常に重要かと思えます。先ほど、清須学講座、清須学歴史マイスターの対象を市民に限定しない方がいいのではないかという提案をしたのも、ブロガーなどの情報発信を見てIターンのような形で定住するような若い人たちもかなり今はいますので、そのきっかけが、ふるさと納税であったり、観光客として来て、その魅力に惹かれたとか、そういう意味では観光地としての魅力を増やすことが若い人たちの定住人口の増加とか、さらには税収増、子育てしやすいような環境をバックアップできるということにもなると思えますので、併せてその辺りは進めていただきたいと思います。

それでは続きまして、舟橋委員お願いいたします。

舟橋委員

お願いします。この4つの目標の中で、最も大事にしないといけないというか、考えなくてはいけないのはやはり、2番の「若い世代が子育てしやすいまちをつくる」ということだと思います。

これは、今後の人口の変化を見ても、どうやったら若い人が住んでくれるかということ、これは積極的にやっていかなくてはいけない。年々減ってくるわけですから、腰を据えて取り組んでいかなくてはいけないと思えます。申し訳ないのですが、他の、シニア世代だとか地域支援、シビックプライドに関しては、ある程度の知恵を絞って対応すれば、ある程度のところまで達成できると思うのですが、どうしても腰を据えて長年取り組んでいかなくてはいけないのは、やはり、若い世代をいかに定着させるか。

固いことばかりではだめで、若い人たちがこのまちでどこで楽しみを得られるのかと思うと、はっきり言って、ないと思えます。清洲城へ行く人も少ない。じゃあどこへ行くのかというと、本当に楽しいまちと感じる、そういうシチュエーションが足りないのではないかというふうに思っています。例えばJR清洲駅に降りたときに、これだけ寂れている駅前では活気も見当たらない。若い人たちに、活気があるよとは、やはりと伝えられないと思うのです。

その中で、市街地整備などの推進ということで、区画整理が進んでいるということ聞きまして、やっとそういうことができるかと思ったのですが、やはり駅前に、ある程度娯楽性のあるビルも誘致すべき。そして、明るく、楽しく、夢はそこで追えないかもしれませんが、せ

めて楽しく過ごせるような時間を共有できるような場所を、やはり考えるべきではないかと思
います。勝手な意見ですが。

座長

ありがとうございました。やはり、子育てしやすいまちづくりと、若い世代がどんどん定住
してくれるという、その辺、ニワトリと卵の関係にも近いと思うのですが、やはり前提として
仕事がないと、所得を生み出すようなまちでない、というところもありますので、企業の立
地、企業誘致なども併せてやっていく必要があるかと思えます。お隣の自治体の話で恐縮な
のですが、稲沢市は合計特殊出生率が名古屋市とほとんど変わらない、愛知県内でも下から7番
目ということで、やはり稲沢市では、比較的、転勤族や若い人などは賃貸に住んだりしていま
すけれども、子どもを産む年齢になると結婚して名古屋に流出したりとかそういう形になりま
すので、まずひとつは、やはりシビックプライドの醸成等で、もともと住んでいる若い人た
ちがそのまま結婚しても住み続けられる、住みたいと思うようなまちづくりを目指すというこ
と、あとはやはり、新しく外から流入してくるような、これは企業の雇用が生み出されて新規
に採用されるということが非常に重要なのですけれども、その辺を併せて、同時並行的にやっ
ていく必要があるかと思えます。

それでは続きまして、山田委員お願いいたします。

山田委員

山田でございます。先ほど話にも関係するのですが、私も、北山委員がおっしゃいまし
た人の問題は極めて重たいと思っていて、一番原点にあるのは、何回もここで申し上げて
いますけれど、「わしゃ清須が好きじゃ」という言葉が離れないのです。そういう思いを持っ
ておられるということは、逆に言えば、清須をもっと知りたいとかそういう希望を持っておら
れて話していただいたと思うのですが、これって理屈じゃないのですよね。やっぱり、そ
ういったもの丸ごとで、清須を知って、そう思っておられると思えます。

今、スマホとかメディアの話が出ましたけれども、情報はどうしても中央とか情報の多いと
ころから流れています。若い世代がそういう情報でずうっと慣れ親しんで成長してしまったと
いうのは非常にありまして、場合によっては、清須の情報がどんどん蓄積されているという経
験値が、恐らくないのではないかと考えております。

そういう面で、逆情報発信と私は言っているのですが、知っておられる方から若い世代
にきちんと情報を流す。そういったことも一方でやっていかないと、清洲が好きじゃという、
若い世代に思っていていただくようなことがなかなかできにくいのではないかと思っていて、一部
の専門家の方だけではなくて、そういった方々から一般市民の方々に情報を流していくという
ことが、極めて私は大事だと思っています。

先ほど、楽しみがないというお話もありましたけれども、若い世代に、本当の意味での喜び
というか、生きる喜び、知る喜び、そういったものを知らせるような試みも絶対必要ではない
かと思えます。

そういう面では、丸ごと清須を理解しよう、丸ごと清須を知ろうよというようなテーマでいろいろな情報を発信して、若い世代の生きる糧とか、物事を考える糧にしていく必要があるのではないかと思います。それが全部、先ほどの若い世代が夢を持つとか、地元に住みたいとかいうことにつながるのではないかと思います。

今、新書版でハーバードで日本が非常に有名になっている、ということで本を読んでいるところですが、私たち日本人が、日本の良さを知らなさ過ぎると同じように、清須の方々もやっぱり、そういった面でベースの部分を蓄積していけば見直されることも多々あると思いますし、自分の言葉で清須のことが語れるようになれば、こんなすばらしいことはないと思いますので、こういったものを大きなテーマとして、本当に「わしゃ清須が好きじゃ」という方をたくさんつくるとというのが一番、原点かなと思っております。

座長

ありがとうございました。今ご指摘があった、「清須が好きじゃ」という、そういうベースは非常に重要ですし、やはりまずは知ってもらうということが重要で、私は理科系でしたので日本史は取ってなかったのですけれども、清洲城くらいは当然知っていました。けれども、大学時代に日本史の好きな先輩が、清須の「鬼ころし」というお酒を居酒屋でとうとうと説明していた、その時期に、清須というのがインプットされたのかなと思います。やはり、知ってもらう、認識してもらうためには、域内にいる人だけではだめで、第三者というか客観的な目で情報発信をしてもらえそうな人も、利用できる場合には利用できるかなと思いますし、先ほどのメディアとか観光関連のホームページだとか、低コストで情報発信ができるような施策はいろいろ試していく必要があるのではないかと思います。

それでは最後に、平野委員お願いいたします。

平野委員

私の方からもシビックプライドという観点といたしますか、自分の感覚で言うと中学校までは地元に残っていますので、15年間を過ごした地域は、本人にとっては一番いい場所であるべきだと思いますし、その間に、いろいろお話が出ておりましたけれども、清須のいいところとか、自分のまちはこういうまちなんだよというのを、どれだけ若い人たちは感じるかということだと思います。

私は鹿児島から出てきているので、どうしても鹿児島の風景だとか、歴史的にも、特に明治維新などいろいろ歴史上にも出ておりますので、学校で習うものも多々ありますので、そういう観点から、当然ながら自分の郷里なので好きです。しかし、就職という面ではやっぱり鹿児島には企業があまりないということで、私みたいに外へ出る人が多いのですけれども、定年を迎えると、中には今度は仕事を終えて郷里に帰るといった方々もたくさんいるということ等を考えると、いわゆる中学校までの間にどれだけ清須のことをいいところだと、自分の郷里だという気持ちを植え付けるというのは、言い方が逆ですけども、そういうことができるかなということだと思います。

それから、私も戦略提言会議に出させていただいたのですけれども、若い方々がしっかりされているなというイメージと、もうひとつは異性との出会いというところで難儀をされているのかなというところがありまして、少しずつですけれど、労働関係の方でも出会いのイベントを実施し始めたところがございます。数字的に異性とのつき合いが難しいというのが出ている話なので、そうしたら企業や行政、いろいろなところでその人たちを何とか助けてあげるしかないのかなとも思っていますので、そういう辺りでも、何かやっただけであればありがたいと思います。以上です。

座長

ありがとうございました。実は私も、青森県の「元気あおもり応援隊」というものに任命されて、いろいろ情報発信したり、あと、八戸市の名古屋での企業立地セミナーなんかでも講演したりとかいろいろやっているのですけれども、清須出身の方なんかも当然、東京とか大阪とかいった界限にもいらっしゃると思いますので、そういった方々をうまく活用する。郷土愛というのは外に行った人ほど持っている可能性が高いので、その方たちを利用することも必要なのかなというふうに思いました。

それでは、以上で議題を終了します。全体的にうまくまとめていただいていますけれども、委員の先生方から今日いただいたご意見等、合意に達しながら、さらに深めていくところもあれば、再検討していただくということで今後進めていただきたいと思います。

それでは、進行を事務局の方へお返ししたいと思います。

事務局

内田先生ありがとうございました。

3 開会

事務局

それでは引き続きまして、次第の「3 閉会」に移らせていただきます。

本日は、今後の本市の地方創生に向けた取り組みにつきまして、貴重なご意見を頂戴いたしました。

いただきましたご意見等々につきましては、さらに深めていくべき課題がしっかりとございますので、内部的にも検討を行ないながら、今後の取り組みをしっかりと進めていきたいと考えております。

また、総合戦略の推進に際しましては、先ほどご意見の中にもございましたように、施策の効果の検証とそれに基づく改善の検討、PDCAサイクル、これを継続的に行なっていくことが重要であるということは当市の方でも認識しておりますので、こういった検証や改善の検討に際しましては、引き続き委員の皆様方のご協力をいただきたいと思っておりますので、今後ともまたよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、以上をもちまして「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」は本年度

のすべての日程を終了いたしました。

委員の皆様、今年度1年間は大変お世話になりました。来年度につきましても引き続きよろしく申し上げます。

それでは、これにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

以 上